

第2回県立高等学校改革懇談会（福島西・福島北）記録

- 日 時 令和5年1月30日（月）14時00分～15時30分
- 会 場 福島北高校 大講義室
- 出席者 別紙参照
- 傍聴者 5名
- 進 行
- （1） 開会

（2） 県立高校改革監あいさつ

本日は、大変お忙しい中、また、足元の悪い中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。また、併せまして、日頃、両校の学校運営や生徒・教職員に対しまして厚い御支援を賜っておりますこと、改めて感謝を申し上げたいと思います。

さて、前回、第1回の県立高校改革懇談会の中では、県立高校改革後期実施計画の策定に至りました経緯や県北地区の福島西・福島北両校の状況を踏まえて、これからの生徒達の学習環境の充実、あるいは、安定的な学びの場を提供していく責務のために両校の統合を判断したことを説明しました。その際、委員の皆様からは「大学進学を想定した学科の検討の必要性」や「地域と連携した学びを魅力とした学校の必要性」あるいは「子供や保護者に魅力が伝わるような教育が必要である」といった御意見をいただきました。これらの意見を踏まえて、県教育委員会側で教育内容などにつきまして検討を重ねてまいりました。本日は、これまでに検討してきた状況につきまして説明しますと共に、さらに皆様から御意見をいただければと考えております。本日も、よろしくお願いたします。

（3） 説明

（4） 懇談（進行 菅野 崇 県立高校改革監）

【 藤原 里香 】（福島西高等学校 PTA 会長）

令和9年は震災後に生まれた子が高校に入学する年であり、もはや「福島の復興」という言葉は、死語になっているかもしれない。そうなるのであれば、人が集まるような魅力ある高校を作ってほしい。特に、現在においては、ITやパソコンのスキルが求められている。例えば「ITパスポート・プログラミングなどの資格取得100%を目指す」目標を掲げると、魅力も高まるのではないか。震災後、福島県内に魅力が無いから県外に出た人が沢山いる。そのような人達を呼び戻す意味でも魅力ある高校を作ってもらいたい。

【 中野 正人 】（県立高校改革室長）

「統合校は、人が沢山集まる魅力ある学校にするべきだ」という意見、その通りである。今回、説明した統合校の各学科の方向性や教育内容については、まだまだ、大まかな部分がある。指摘があったような具体的な目標、子ども達が抱きやすい目標を設定しながら、今後、検討していく。

【 村上 敏通 】 (地元有識者)

昨年8月に第1回改革懇談会を行った後、福島市北部や飯坂から教育庁に向けて様々な要望が出た。それを踏まえた上で、本日の報告になったのか確認したい。それから、統合校が福島西高校に行くのであれば、福島北高校の校舎や敷地はどうか。福島北高校の校舎や敷地は、まだまだ利用価値がある。また、西高の敷地面積は非常に狭いので、統合した場合、部活動はどうかという疑問も生じる。このような状況下で、教育庁側は、最終的に福島西高校を利用することに決めたのか確認したい。

【 中野 正人 】 (県立高校改革室長)

資料にある通り「統合校は福島西高校の校舎を利用する」と示した。以前「福島北高校の校舎を利用して運営できないのか」という要望や御質問を頂戴した。しかし、これまで、こちらで回答した通り、福島西高校と福島北高校を統合するとした場合、我々は生徒達の通学を第一に考え、福島西高校が良いと判断し、設定した次第である。また、事務局からの説明のとおり、統合校では、様々な特色ある学科を準備し、広域から子ども達が集まってくる魅力ある学校にしたいと考えている。そういった意味でも、広域からの通学が可能となる、福島西高校の校舎を利用していくこととした。

福島北高校の敷地の活用については、所在する福島市との話し合いが必要になると考えている。

「統合後の部活動が、今の福島西高校の状況で実施できるのか」という御意見について。今、現在福島西高校では外部の施設を利用するなど不便な状況ではあるが、部活動を実施している。また、資料の20ページに「部活動の設置方針」がある。具体的にどの部を統合校の部として設置していくのかはこれからになる。まずは両校に存在している部について令和6年度末を目途に、両校で相談しながら整理する方針は決まっている。御理解願いたい。

【 村上 敏通 】 (地元有識者)

確認になるが、部活動についても、福島西高校の施設だけで行っていくことになるのか。

【 中野 正人 】 (県立高校改革室長)

統合校の部活動は、福島西高校の校舎・敷地を使って運営することになる。「福島北高校の校舎・体育館・グラウンドは部活動に活用しないのか」という点について。現状においては「部活動が将来どうなるのか」も含めて考えていく。「空き校舎」となる福島北高校について、自治体である福島市と相談しながら検討していきたい。今の段階では、統合校として福島北高校を部活動で使う予定は無い。

【 佐藤 静子 】 (地元有識者)

統合校の学科について「探究科」「デザイン科学科」が1クラスずつ、そして「総合学科」が4クラスとなる。なぜ「普通科」を使わず「総合学科」としたのか。それから、中学生の段階で、最初から「自分は、総合学科に行きたい」生徒は、どのくらいいるのか。「総合学科」は「科」というより「系列」という分け方をされ、時間割を組む場合、

一人一人が科目選択で進路をプログラムすることになる。「探究科」があって「デザイン科学科」があって、「総合学科」があるということで「統合校の目指すものが広がりすぎる気がする。」指導する先生達が大丈夫か心配になってくる。

【 中野 正人 】 (県立高校改革室長)

「普通科ではなく、なぜ、総合学科なのか。」という点について。まず、総合学科とは、農業、工業、商業のような専門学科をイメージすると思うが、総合学科は、専門学科と比べると普通科に近い存在である。ただ、選択科目が普通科よりも多く設置できるので、他の総合学科の高校では、農業、工業、商業などを選択科目に入れながら教育活動をしているところもある。今回、統合校として考えている系列は「大学進学のための文理系列」「看護医療系の専門学校に進むための、看護・医療系列」「情報・商業を学ぶ、情報ビジネス系列」「保育・公務員を含めた教養系列」の4つである。確かに、選択科目は多くなる。しかし、それが逆に「総合学科の強み」である。生徒達の進路希望については、1年次に「産業社会と人間」という科目で自分の将来についてしっかり考え、それに応じて系列を選択していく。そして、モデルプランを参考に、自分の時間割を考えていくことになる。

【 川名 健一 】 (福島市立西根中学校長)

探究科について、資料に「探究型学習(例)」、「(2単位)」と記載がある。日常の授業で週に2時間、実施することになるのか。

【 中野 正人 】 (県立高校改革室長)

今のところ、探究的な学習に取り組む時間数は、週に2時間程度と考えている。今後、検討を深めていく中で、時間数が増減する可能性はある。

【 川名 健一 】 (福島市立西根中学校長)

それを基に、最終的に進路を国立大学や難関私立大学と想定しているが、これを活かすために、学校推薦型選抜や総合型選抜を見据えているのか。最近の共通テストは、教科に特化して、問題数も非常に多い。今迄の「普通科」のように勉強をしっかりしておかないと対応できないテストである。だから、教科の指導を行いつつ「探究」も入れていくようになるのか。仮に、学校推薦型選抜や総合型選抜に重きを置いたら「特進科」という学科名にした方が、子ども達にとって魅力あるものになるのではないか。

【 中野 正人 】 (県立高校改革室長)

探究的な学びを活用しながら、大学進学を目指していく。校長先生が述べたとおり、従来であれば学校推薦型選抜や総合型選抜を受験していくことになる。「特進科」の名称について。どのような学科であるか、容易にイメージできるが、この学科名を公立高校で使っているところはあまり無い。他県の先進校を参考に、「特進科」の意味合いを持ちながら、学力だけの進学ではなく、探究的な学びを通して人材育成をし、その活動内容を活かして大学進学を果たしていく「探究科」という名称を付けたのである。

【 紺野 篤男 】 (地元有識者)

地元の商工会長をしているため、どうしても飯坂地区のことが非常に気になっている。今回、福島北高校が無くなるのは非常に淋しく、地元の活性化を考えると大変残念である。今回、検討の上、福島西高校に行くというのは、やむを得ないことだと思うが、「通学の利便性」や「広範囲の生徒を集める」ということなら、福島北高校でも良いのではないか。やはり、学校に魅力があれば、多少、通学距離が遠くても、生徒は集まってくる。前回の懇談会でも申し上げたが、やはり、敷地面積が広く、部活動も十分にできるような環境がある福島北高校の利用をもう一度検討しても良いのではないかと。

「探究科」「総合学科」の学科について、これから受験に臨む学生にとって、どのような学科であるか理解させなければ、選択できなくなってしまうのではないかと危惧している。しっかりと説明をしてほしい。また「探究科」は他県に設置されている学科でもあるので、他県の良い事例を取り入れてほしい。

最後に、教育内容について、1年次で共通科目の履修をし、2年次以降、自分の希望によって進路を分けることになるが、例えば、同じ進路先に多くの生徒が希望を出して、進路先のバランスが偏った場合、どのように対応するのか。

【 中野 正人 】 (県立高校改革室長)

「福島西高校を利用する」ことについて。先程、説明した通りである。御理解いただきたい。それから、中学校に対して、各学科の説明をしっかりとすべきだという御意見、まさしくその通りである。今後、更なる検討を進め、しっかりと固めた上で、中学校に説明をしていきたい。さらに、探究科については、福島県で設置している高校はまだ無いので、他県の例を参考にしながら、より良いものを作っていきたい。

【 佐藤 秀美 】 (福島市教育委員会教育長)

改革後期実施計画では、統合校は「進学指導重点校」と位置付けられている。学科構成は「探究科」と「デザイン科学科」が1学級ずつ「総合学科」が4学級。進学指導拠点校である福島高校との連携についても触れられている。これらについて、どのようなイメージを持っているのか伺いたい。私は、どちらかといえば「キャリア指導推進校」の色が強いと思っている。

次に、中学生に対するアンケートの実施は、大切なことであると考えている。ただ、実施する前に、統合校は、どのような高校となるのか、しっかりと中学生に分かりやすく説明した上で実施すべきである。それにより、統合校が周知される形となるので慎重に行っていただきたい。子ども達はタブレットを持っているので、グーグルフォームでのアンケートであれば、QRコードから、すぐに回答を得ることができる。また、広域からの進学を考えているのであれば、福島市以外の地域に対してもアンケートの実施が必要ではないか。

【 中野 正人 】 (県立高校改革室長)

「進学指導重点校の位置付け」について。現在、福島西高校は「進学指導重点校」で、福島北高校は「キャリア指導推進校」である。今回「探究科」を設置するにあたり、福島西高校で推し進めている進学指導をより膨らませ、その部分を引き継ぎ、子ども達の

進路希望に応えられる学校にしていきたい。また、現在、福島西高校の「デザイン科学科」の大学進学率は高い水準にあり実績がある。新たに設置する「総合学科」では「文理系列」を設け、大学進学を目指す生徒の希望に応えられる科目設定をしていきたいと考えている。

「中学生のアンケートの実施」について。助言いただいた部分を考慮して、今後進めていきたい。

【 中村 宗成 】 (福島北高等学校 PTA 会長)

統合校の受験基準、つまり学力のレベルは、どの辺りを考えているのか。先程、話では、福島西高校は「進学指導重点校」、福島北高校は「キャリア指導重点校」と分かれている中で統合する。その中で中学生は、どのような準備をしなければならないのか。指針を示していただきたい。

次に、「探究科」について、「この学科に行きたいから中学校のうちに勉強する」となるのか。あるいは「この学科に入って私は学んでいく」となるのか。もう少し、かみ砕いて説明してもらおうと、中学生でも理解できるのではないか。

最後に、要望になる。先日、福島西高校を訪問した。やはりグラウンドが狭く感じた。あの状況の中で、部活動における生徒の安全が担保できるか不安である。もう一度よく考えていただきたい。

【 中野 正人 】 (県立高校改革室長)

まず、統合校の学力のレベル、いわゆる「偏差値」について。高校受験における偏差値は、県では算出していない。学習塾や模擬試験を実施するところが算出している。どのくらいのレベルであるかは、言いにくいですが、統合校は「進学指導重点校」である。大学進学を目指す子ども達に目指してもらいたいと考えている。どのような子ども達が集まるかは、今後、我々のしっかりとした検討と説明にかかってくると思う。そこを目指してくる子ども達によって偏差値のレベルが決まってくると思う。

次に「探究科」について。何を探究するか、題材は様々である。例えば「地域に対して、こういった課題がある。では、その課題について解決するためには、どのようなことができるのか。」を探して研究していくのが「探究活動」となる。そのテーマは、今ほど「地域課題」と話をしたが、先ほどの説明では「SDGs」の視点で、その課題を見つけていくと考えている。そして、それらの課題に対して、自分がいろいろ調べて、その課題を解決する方策を考えることが「探究的な学習」になる。

「福島西高校のグラウンドが非常に狭い」件について。先程から説明しているとおりである。部活動の在り方を今後検討していきたい。

【 横山 信一 】 (福島北高等学校同窓会長)

福島北高校の場合、周辺地域の状況を見る限り、学校以外に利用価値は無いと思う。その一方で福島西高校は利便性がある分、学校以外の部分でも利用価値があると思う。福島北高校の跡地活用について、福島市と相談しながら決めていくようだが、単に「相談だけして考えます」程度の話になるのか、あるいは、統合校が開校するまでに、県側が「跡地は、このように利用します」と具体的な方向性を出すのか伺いた

い。

【 中野 正人 】 (県立高校改革室長)

跡地の利活用について。今後、福島市の考えなども伺いながら検討する。統合校が開校する令和9年までに、跡地活用について方向性を示せるのかについて。検討を重ねていく中で様々な課題などが出てくると思う。例えば、地域の実状について、福島市だけではなく、福島市側で地元の住民と話し合いをすることも必要になってくると考えている。様々な意見を伺いながら検討していくことになると思う。我々としては、学校が無くなることに対する皆様の不安な点や残念な気持ちを大変重く受け止めている。方向性についても、なるべく早く示すべきだという御意見だと受け止めて、検討を進めていきたい。

【 村上 敏通 】 (地元有識者)

サッカーや野球などの部活動は、広い敷地が無いと生徒の安全性は確保できない。それに加えて、福島西高校の敷地で「この部活動は行う。この部活動は行わない。」となると、部活動の選択肢を非常に狭めてしまい、高校に入学した生徒達の希望に沿うことができず、淋しいものになってしまう。それを考えれば、再度、福島北高校の広い敷地の利活用を考えてもらいたい。

統合後、福島北高校の場所を全く利用しない場合、福島市と協議するというが、仮に、県側で「敷地はどうするのか」と聞いて、福島市側が「利活用しない」という場合、「即、売却」と簡単な方程式で考えているのであれば、そうではないと思う。かつて、県教育委員会が、地元飯坂町民の協力を得ながら、この地に学校を移転した歴史的背景を踏まえて考えてほしい。

【 菅野 崇 】 (県立高校改革監)

跡地の件については、今後、福島市と相談するが、我々としても、この統合と一緒に考えるべきものであると認識している。いつまでも、土地が放置される事が無いよう、福島市側だけに預けることはせず、自分の事として考え、一緒に相談しながら方向性を見出していきたい。

【 熊坂 淳一 】 (福島市政策調整部長)

先程から、統合の場所について多くの意見が出ているが、まずは、子ども達の学習環境が重要である。現在、福島西高校に統合することで計画は進んでいるが、どちらに統合することになっても、学校が無くなってしまいう地区が出てくる。その地区について、今後の対応が非常に重要になってくる。そこでは、地元の人々の意見を十分に聞く必要がある。特に、今であれば、福島北高校が利用されなくなる。飯坂地区の賑わいがどうなるかが心配である。賑わいが創出される連携を福島県の皆さんと組みながら、市としても協力していきたいと考えている。

統合校の特色化・魅力化について。福島市としては「子育てと教育で選ばれるまちづくり」を推進しており、その中で、高校の教育も大変重要であると感じている。そのもとで、統合校は、全国から注目されるような教育の推進をお願いしたい。また、

デザイン科学科については、資料にもあるとおり、国内でも珍しい特色のある学科である。「まちづくり」自体のデザインにつながる学科の魅力、カリキュラムの充実をお願いしたい。

【 中野 正人 】 (県立高校改革室長)

跡地については、御意見を参考にして今後の検討に生かしていきたい。

デザイン科学科に関する御意見について。この統合が、後期計画最後の統合になる。魅力的な学科になるように時間をかけて検討していきたい。必要な場面に応じて御意見をいただきたい。

【 菅野 崇 】 (県立高校改革監)

私どもも、福島市の考える「まちづくり」をしっかりと理解しながら、一緒になって取組んでいきたい。また、学校の魅力において「探究」が出てきた。これは、新しい概念だと思う。従来の普通科で学んでいた学びではない。新たな「探究」という掘り下げる行動を通して知識を身に付け、子ども達の資質を育む取組をしながら、学力を高めていく学びである。この学びについては、まだ取組んでいるところが少ないため理解が深まっていないところもある。先程、紺野氏から「理解を深める必要がある」と指摘も頂戴した。これが魅力として中学生に感じてもらえるようにPR・広報に意識して取組んでいかなければならない。

【 伊藤 隆之 】 (地元有識者)

私なりの統合校の特色を3つ述べる。まず「進学指導重点校」。これは福島東高校や橘高校と同じ位置付けであると考え。次に、「部活動が盛んな統合校」。福島北高校の野球部、福島西高校の女子バスケット部などは非常に有名である。そして3つめに「デザイン科学科」。これは福島県の公立高校で唯一の学科である。

続いて、皆さんとの共通認識として「魅力化」を考えている。その中で、統合校は女子高校ではないが、今後の社会では、女性がますます活躍すると考えている。偏差値や学歴だけではない、実社会において活躍できる女性像を目指し、その礎(いしずえ)として、「東高校より西高校だ」と言われるくらいまで、志望者数を増やしていくことを目指してもらいたい。つまり「輝ける女子」になるため、「この統合校に入りたい、学びたい」と思わせるイメージ作りこそが志望者数を増やすには不可欠ではないか。女性の意見は、活躍の場が広がるにつれ、さらに強力になると思う。福島南高校にも、働く女性に人気の特色あるコースがある。また、統合校では、歴史や文化などを大切にして、文武両道を実践し、バランスのとれた生徒の育成を行ってみるべきではないか。そのための提言として「産学官連携」が有効であると考えている。つまり、学校のみならず、地域と連携することで、様々な効果が得られるようになる。ちなみに、私立の高校では、県内外を問わず、積極的に行っている。例えば「デザイン科学科は将来どんな仕事があるのか」素朴な疑問に答えるという、要は、進路に応じた活躍の仕方を、子ども達に対して説明できるようになることを考えている。そういったところをしっかりと情報発信してもらい、飯坂と福島市中心部をつなぐ担い手を育てるべく、我々大人達が協力していくことを考えている。

新設の探究科について。大学における卒業論文を作成するようなイメージをもって。何か一つのテーマを極めてやり遂げる学びであると思う。今や学歴だけでは通用しない世の中である。その中で、多方面から外部講師を積極的に招いて、生徒達の視野を広げ、深掘りできるようなカリキュラムを期待している。これが保護者から、統合校の良いイメージにつながり、子どもが卒業した後も学校を応援してくれるようになるのではないかな。

アンケートに関する件について、私からは在校生に対するアンケートも実施してほしい。

【 中野 正人 】 (県立高校改革室長)

魅力化について。「女性がますます活躍できるような学校を目指すべき」という御意見、新しい視点を頂戴したと思っている。また、歴史・文化のバランスがとれた文武両道を目指すことについて、先生方と意見を共有しながら検討していきたい。

探究科については、先程申し上げた取組を通して、これからの子ども達に求められる力、例えば、主体的に課題に取り組んで、他の人達と協働して努力して取組むことができる力。これは、求められているものであるし、今後身に付けさせたい力である。その点については、大学においても、同じように考えているので、探究学習の内容が大学進学にも活用できると思っている。

アンケートの件は、先程、佐藤教育長から指南していただいた内容も含めて、検討していきたい。

【 佐藤 信行 】 (福島市立岳陽中学校長)

県北地区管内で、梁川高校と保原高校が統合し伊達高校ができたように、県内各地で、高校の統合が進んでいる。その中で、各学校の跡地について、移行する期間をどのように持っていったら、どのような課題があったのか教えてもらいたい。

次に、将来の子ども数の推測しながら、学級数を設定していると思うが、令和9年度までの間に、学科の学級数が変更されることは可能なのか。例えば「探究科を2クラス、総合学科を3クラス」などとすることは可能なのか。それとも、クラス数については、既定路線で、資料にある学級数で進めていくのか。

【 中野 正人 】 (県立高校改革室長)

私からは、学科・学級数の変更の有無について説明する。統合校の学科については、3つの学科を設置することを示した。今後検討していく中で、余程のことがない限り、覆す考えは無い。このまま進めていく。学級数についても、現在の子どもの人口減少を鑑みながら、学級数を設定している。仮に、想定を大きく超えた場合、学級数に変更が生じると思うが、現状においては、計画通り進めていきたい。

【 菅野 崇 】 (県立高校改革監)

跡地の件について。既に、先行して統合した学校、また、前期計画の中で統合を示し、来年度までに統合するところがいくつかある。その中で共通していることは、改革懇談会などの場で伝えられた「地域における学校の存在意義」や「皆様の学校に対

する思い」であり、我々は、それをしっかり受け止めている。学校が無くなってしまふことによって、「地域の活力や賑わいが、弱まってしまふのではないか」と心配する方が多くいた。その中で、積極的に「次は、こうしよう」とすぐに切り替えられないことはわかっており、それを我々は受け止めている。しかし、先程申したとおり、この地域における象徴的な、地元の皆さんが卒業した学校を「空き校舎」のまま、いつまでも放置されてしまうのも望ましいことではないと感じている。具体的に話が進んでいる事例が正直無いが、そのまま黙って見ていることはできない。先程、福島市側と協議する話が出たが、やはり、地元の方々の声や行政で考えていることなどをしっかり伺い、先を見据えた対応を考えていきたい。具体例が無いので、明るい情報を皆様に提供できないが、そこの部分は、我々も自分事として考え検討していきたい。

【 佐藤 秀美 】 （福島市教育委員会教育長）

私どもも義務教育を扱っており、小中学校の統合もある。学校は同窓生にとってのアイデンティティーに関わるものであり、無くなれば誰もが淋しい思いをする。しかし、「子ども達にとってより良い教育環境をどう整えていくか」その一点で、皆進んでいる。

統合校の魅力を学校ができる前に作っていかうとすることは、もちろんある。しかし、特色は、学校ができてから時間をかけて根付いていくものだと思う。生徒の顔が見える。生徒が生き生きと活躍している姿を見て、子どもは「この学校に通いたい。」、保護者は「子供を通わせたい。」となってくる。だから、例えば、探究科の成果発表が資料にあったが、そういう場を中学生にも開放する。また、高校生が、積極的に外に出て活動する姿を大切にしていきたい。

次に、現在、デザイン科学科や総合学科で取組んでいる中で統合校に継承するものがある。それならば、新しい学校ができる前に、今の福島西高校、福島北高校ができることがある。そういう魅力を今から発信していくことで、中学生は「自分もこんな高校生になりたい。だから、統合校に入る。」ことになるのではないかと。

最後に、福島市の強みは、自治体はもちろんだが、県内企業の本社機能があることである。その強みを生かして、企業や関係団体との連携も考えていきたい。

【 中野 正人 】 （県立高校改革室長）

今の福島西高校、福島北高校それぞれの取組で、統合後、継承するものについては、しっかりと中学生や地域の方々に伝えていくべきである御意見、まさにその通りである。今後、検討した上で継承する取組については、実践していきたい。また、企業を含めた連携について。学びを整理する中で、どのような取組が効果的なのかを考え、検討を進めていきたい。

【 菅野 崇 】 （県立高校改革監）

我々がこのように検討している魅力もある。それから、入学してくれた子ども達が磨き上げてくれる新たな魅力もある。そのような魅力を生徒達の力を借りながら、この地域全体に感じてもらえるように、我々も取組んでいきたい。また、今回「デザイン科学科」「探究科」の新たな取組がある。これは、福島市だけではなく県北地区に

おける魅力の一つであると考えている。是非、広域の中で考えて、統合校に魅力を感じて、統合校を目指す子ども達を増やしていきたい。

【 渡邊 美幸 】 (福島西高等学校同窓会会長)

我々は、本当にいろいろ考えて意見を出したが、その意見が反映されていないのが淋しい。一つの校舎で、生徒が切磋琢磨できる環境を考えたら、校舎や校庭が広い福島北高校が良い。同窓会には「野球部の練習はどうするのか」など、いろいろな相談が寄せられている。そのような中、福島西高校の子ども達は厳しい状況を乗り切りながら学校生活を送っている。私は、統合前の生徒数が多い福島西高校の生徒が、環境の良い福島北高校に来るのが良いと考えた。「遠くて大変だから」という理由だけで福島北高校の校舎を使用しないのは、もったいない。

【 菅野 崇 】 (県立高校改革監)

今後もいろいろと考えながら検討を進めていきたい。

【 菅野 崇 】 (県立高校改革監) 【挨拶】

本日も皆様から貴重な御意見をいただき、ありがとうございました。この統合校につきましては、先程から話がありましたとおり、探究型の学習を取り入れ、高い進路目標を実現するといった特色、また、県北地区で唯一、総合学科を設けた高校という特色、また、これまで福島西高校が取組んできた、県内唯一のデザイン科学科という特色もございます。新しい統合校は、県内でも類を見ない特色を持った高等学校になると期待しております。そして、広範囲にわたって生徒達が関心を持ってくれる学校を目指しております。本日、いただいた御意見ですが、先程「なかなか反映されない」と御指摘を受けました。もう一度、皆様からいただいた御意見を振り返って検討します。また、「中学生に対するアンケートを実施してほしい」と御意見がありましたので、具体的に進めていき、その内容については次回の懇談会の場において説明させていただきます。

本日は、長時間、皆様どうもありがとうございました。

(5) 閉会